奉仕を通じて
平和を
田中作次
2012-13年度
国際ロータリー会長

Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

NO.1172 平成25年2月5日

◆例会日/週火曜日　12:30～13:30　◆例会場/小諸市鶴巻　音羽
◆事務局/〒384-0025　長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
TEL 0267-23-8125　FAX 0267-23-2788

2012-2013 役員
◆会　　長 / 黒澤　明男　◆副　会　長 / 小林　秋生
◆幹　　事 / 西川　宏　◆ｸﾗﾌﾞ広報･情報委員長 / 橋詰　希望

◆点鐘　黒澤　明男　会長
◆SAA　中河　邦忠　委員
◆ソング　君が代
　誕生日の歌
◆ゲスト　牧野　和人様（東信史学会長）
◆ﾋﾞｼﾞﾀｰ　星野嘉助君（軽井沢）

【会長挨拶】 黒澤　明男　会長

若林会員について報告いたします。先月中旬、浅間病院で胃の内視鏡検査を受けましたところ、胃の上部と下部に小さなガンが見付かりました。その後の治療処置として一昨日、浅間病院に入院、昨日ガン摘出手術を受けました。早期発見と患部が小さかったため順調な手術でした。術後は2週間位の入院、加療をするとのことです。孝子夫人よりクラブの皆様にくれぐれもよろしくお伝えくださいとのメッセージをいただきました。

若林会員の一日も早いご快癒を会員の皆さんと共にお祈りしたいと思います。クラブとしてお見舞いは様子を見て伺うつもりでおります。また、当分の間、クラブ例会など出席できないため、若林会員より休会届が提出されております。本日例会終了後の理事会で審議いたします。

昨日は季節の暦、24 節気の一つ〈立春〉でした。これより春が始まりますとのことです。このところ、なんとなく温かさが続き、少し春めいてきた感じがします。春和景明となる日も近いと思いますが、会員の皆様におかれましては十分な睡眠をとり、体調管理に万全を期して風邪などひかれないようご自愛ください。

本日のプログラムは、平成 19 年 4 月「小諸城と風林火山」についてお話をいただきました東信史学会小諸副支部長、牧野様の卓話です。前回と違った切り口での小諸城の物語について拝聴し勉強させていただきます。楽しみにしております。

二十四節気

小寒	＜1 月 5 日＞	冷え込みの厳しい寒い時期です
大寒	＜1 月 20 日＞	寒さの最も厳しい冬の季節です
立春	＜2 月 4 日＞	春が始まります
雨水	＜2 月 18 日＞	寒さが和らぎ雪が雨に変わります
啓蟄	＜3 月 5 日＞	冬眠していた虫達も目を覚まし地下から出てきます
春分	＜3 月 20 日＞	太陽が真東から真西に沈み昼夜の長さが同じです
清明	＜4 月 5 日＞	空が晴れ明るい季節に移ります
穀雨	＜4 月 20 日＞	春も終わりに近づき穀物を育てる雨が降ります
立夏	＜5 月 5 日＞	夏の始まりです
小満	＜5 月 21 日＞	太陽が温かく満ちる頃です
芒種	＜6 月 5 日＞	麦を刈り、稲を植える季節です

夏至	＜6 月 21 日＞	一年中で昼が一番長く夜の短い時です
小暑	＜7 月 7 日＞	夏の暑さが始まります
大暑	＜7 月 23 日＞	最も暑い時期です
立秋	＜8 月 7 日＞	残暑は未だ厳しいが秋の気配が感じられます
霜降	＜10 月 23 日＞	秋が終わり冷たい霜の降り始める頃です
立冬	＜11 月 7 日＞	冬が始まります
小雪	＜11 月 22 日＞	本格的な寒さに近づき雪も降り出します
大雪	＜12 月 7 日＞	雪が降りしきり寒さが厳しくなります
冬至	＜12 月 22 日＞	一年中で昼の最も短い時です

【幹事報告】 西川　宏　幹事

1.　例会変更

佐久コスモスRC

2月11日（月）法定休日の為休会　定刻受付なし
2月18日（月）ｸﾗﾌﾞﾌｫｰﾗﾑの為　定刻受付あり
3月11日（月）合同例会の為　定刻受付あり

上田西RC

2月21日（木）IM･会員ｾﾐﾅｰに振替
定刻受付あり
2月28日（木）合同例会の為　定刻受付あり

2.　週報
丸子、上田西RC

例会終了後現及び次期合同理事会

本日の配布物
週報 1170、1171 号

◆誕生日祝

黒田　説成会員　S13.02.26

前田　博志会員　S25. 0208

青松　英和会員　S24. 02.27

◆結婚記念日祝

矢島　栄一会員　まゆみ夫人
H07.02.19

◆皆勤賞

矢島　栄一会員　5回

◆ラッキー賞

NO. 16　星野　嘉助君

◆ニコ BOX　清水　良英　委員

黒澤明男君	若林会員の一日も早い退院を心より願っております。
黒田説成君	誕生日祝ありがとうございました。医療費が10%の年になりました。
神津恭通君	ｹﾞｽﾄの牧野さん今日はご苦労様です。渡辺英世さん久しぶりの出席有難うございます。
西川宏君	IM･会員セミナー出席ありがとうございます。
前田博志君	お誕生日ありがとう。
矢島栄一君	結婚記念日祝、皆勤賞のダブル授賞ありがとうございました。

【本日のプログラム】

小諸城物語と小諸フィルムコミッション

牧野　和人様

歴史を語る石碑　　小諸城址懐古園内の石碑について

はじめに

　小諸には各地にそれぞれゆかりのある石碑がありますが、渡辺委員長さんから小諸城の歴史について何か話をとの要請がありました。懐古園にはいくつかの石碑があります。その中の歴史を語る石碑を三つ紹介したいと思います。私は先生でも、歴史の教育を受けたわけではありませんので、うまく説明できるかわかりませんが、先輩の皆さんが調べたことを参考にして、自分なりに調査したことを発表させていただきます。

　この三つの石碑には小諸の歴史の一部が書かれており、当時の日本の一流の方々がかかわっており文章・書・刻など見るべきものがあります。後ほどひとつひとつお話いたします。

　三つの石碑は幕末から明治にかけて活躍した徳川宗家１６代徳川家達（いえさと）公と幕臣「三舟」による書であります。三舟とはご存知の通り勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄舟です。官軍参謀西郷隆盛に談判し、江戸城無血開城と江戸を戦火から守った幕臣たちです。（幕臣とは明治になってからの言葉で、明治以前は旗本・御家人）
三舟の書が一ヶ所にあるのは全国的にも珍しく、文化的に貴重な石碑で小諸の誇りの一つであると思います。

　当時の政治の中心であり、絶大な権力をもっていた徳川家とその重臣たちとが、この田舎の小さな小諸藩に関係していたのか、私なりに考えてみたのですが、時代はさかのぼり、戦国時代より小諸は交通の要衝で、信濃攻略の重要な場所（中仙道、北国街道、甲州街道）として注目していた為、各為政者が有力の部下を配置した。武田、織田、北條、豊臣そして徳川政権になり、小諸城は徳川譜代大名（三河以来）が配置された。松平氏、青山氏、酒井氏、西尾氏、石川氏（松平）、そして牧野氏と続きましたが、すべて家康の本拠地三河（愛知県）以来の徳川家家臣団です。

　特に元禄１５年入封以来幕末まで国替えも無く１６６年間在城した牧野氏はその一族（長岡、三根山、笠間、田辺）が常に幕府の重臣であった。一族の石高の
合計は 215,000 石で外様、親藩を除く譜代では異例であった。そんな関係から家臣ともども、幕府とその重臣たちとの交流があり、企画に賛同してくれたのではないかと思い先人たちの努力が今に伝えられ、残されているのではないかと思います。

懐古園の碑　　明治１４年１０月建立　懷古神社創建（１３年）の翌年

題　額　　勝　安芳（やすよし）の書。　　西郷隆盛と談判し江戸城無血と江戸を戦火から救った立役者。勝海舟です。

撰文と書　中村正直　　号　敬宇　　天保３年江戸で生まれ幕臣
儒学者で明治期の啓蒙思想家として活躍。
東京帝國大学教授、元老院議官、貴族院議員を歴任

内　容　　非常に簡潔に小諸の歴史を述べており名文であります。

牧野康哉公遺徳碑　　明治３１年１２月建立

篆　額　　徳川家達　徳川宗家１６代（４歳）　静岡藩７０万石（駿府）に減封。
御三卿田安家より養子（亀之助）。　現在の牧之原台地の茶栽培。
貴族議員議長３０年間勤める。後日本赤十字社社長、東京慈恵会長など歴任。公共福祉や国際平和に尽力
昭和１５年６月７７年の生涯に幕を閉じた。

撰文　　島田重礼　　漢学者　文学博士、東京帝国大学教授
号　篁村

書　　日下部東作　書家　明治の三筆（中村梧竹、巌谷一六）と呼ばれ
近代書道の確立者の一人。
彦根藩士田中惣右衛門の次男として天保９年(1838)生まれる。
22 歳の時同じ彦根藩士日下部三郎右衛門の養子となる。
藩主井伊直弼が桜田門外（万延元年 1860）で暗殺されたため録は
大幅に減り、生活に困窮したため上京し書家を決意。
維新後大久保利通の知遇を得て太政官に勤め、内閣大書記官など歴任。弟子に比田井天来などがいる。

刻　　井亀泉　　彫刻師　本名　酒井八右衛門

江戸三大石匠と呼ばれ名工として、多くの神社仏閣に作品を
残している。越前福井藩松平家の重臣を祖とする。

内　容

幕末の名君と言われた牧野家９代牧野康哉公の治績をたたえた碑文。
天然痘の流行を未然に防ぐため種痘をいち早く取り入れ、自分の娘に試してから
奨励した。侍医の派遣。桑田立斉にその術を学ばせた。
領民二万四千人に施した。
学問の奨励、藩校明倫堂の充実、西洋の砲術を江川英龍に学ぶ。
育児仁恵法、養老賑恤法、尚歯法（８０才以上の領民に藩主囲米を支給
幕府若年寄を勤め井伊直弼の懐刀といわれた。
没後４０年経った今、田畑は開け、人口も増加し、衣食足り、良い所になった。公のその治績を思い、関係者が相計り旧城址懐古園に碑を建てて後世に伝えようとした。
私島田は公の施子（藩主康民）から聴き、大いに感銘し作文した。と書いています。

佐々木如水先生碑　　明治１０年立秋建立

題　額　　山岡鉄舟（鉄太郎）　　幕臣　天保７年江戸生まれ　　５３歳
旧姓小野、　鬼鉄の異名をもつ剣豪としも知られる。
明治元年勝海舟の使者として静岡で西郷隆盛と会見、江戸城
無血開城に道筋を立てた。
維新後静岡藩（徳川宗家）権大参事を経て新政府に出仕、明治天皇侍従などを務めた。

書　　高橋泥舟（精一）　　幕臣　　天保６年江戸生まれ　６９歳
旗本　旧姓山岡　山岡市郎右衛門の次男　清一郎　槍の達人
母方の高橋家へ養子となる。
（山岡家に残る妹英子の婿養子となったのが鉄舟である。したがって鉄舟と泥舟は義兄弟である）
幕末動乱期において徳川家存続のために奔走した一人である。

撰文　　白井篤治　　漢学者　　昌平坂学問所（湯島聖堂）教授
昌平坂学問所は５代将軍綱吉が建てた湯島聖堂に日本で最初の幕府官営の学問所である。門下生に佐久間象山、渡辺崋山、高杉晋作、榎本武陽、清河八郎など

内　容

享和３年(1803)小諸藩士小竹半太夫の家に生まれ、文武両道に優れ家塾開き門弟千人を数えた。60 歳の文久３年(1863)幕末の争乱の中徳川家への恩義のため、江戸へ向かい江戸市中の警備を担当する「新徴組」(文中は新徴隊)に入隊し薩長軍に刃向かう。佐々木氏は源氏佐々木三郎盛綱の後裔という。
その間新撰組の近藤勇、幕臣の山岡鉄舟、高橋泥舟らとの交流し、戊辰戦争に備え庄内藩酒井氏に付き従いました。62 歳の時である。
維新後酒田県の士族になる。明治６年東京に戻る。時々小諸を訪れかつての弟子たちと旧交を温めた。門弟たちが先生の筆塚を北国街道「唐松一里塚」の西側に建てた。平成７年１０月有志により現在地に移された。

以上三つの石碑について簡単にお話しましたが、今後内容をもっと精査し、関係することを調査したい。勝海舟、山岡鉄舟の直筆の書は徴古館にもありますのでご覧下さい。拓本採取された田代辰雄氏と協力いただいた懐古神社の役員の皆さん、解読していただいた塩沢高尚先生、参考資料として利用させていただいた飯塚道重先生、塩川友衛先生にお礼申し上げます。

小諸フィルムコミッションについて

① 設立の経緯・運営規約・役員名簿
② 設立以来の活動状況・ガイドブックについて・ホームページについて
③ 最近の活動内容
　アニメ「あの夏で待ってる」のロケ支援
　島崎藤村原作「家」の映画化のロケ支援と公開について
　公開日５月１１日(土)

簡単に活動状況を説明させていただきました。

小諸には誇りをもって紹介できる人物・物が多くあります。今後も活動を続けて参ります。ご清聴ありがとうございました。

来週のプログラム： IM･会員セミナー報告

【出席報告】 前田博志 委員

	会員数	出席	M･U	欠席	出席率
本　日 02 月 05 日	24	20	事前(0)		83.33%
前々回 01 月 22 日	24	21	事後(1)		修正 91.67%